

中学2年生 京都府立洛北高等学校附属中学校訪問研修

令和7年9月6日（土）、中学2年生の希望者による京都府立洛北高等学校附属中学校訪問を実施しました。今年で3年目となる企画で、39名の生徒がバスで京都へ向かいました。

午前中は、京都大学総合博物館を見学しました。ここは京都大学が開学以来100年以上にわたって収集してきた貴重な学術標本資料が多く展示されており、自然史、文化史、技術史に分かれたブースが設置されています。アジアゾウの頭骨やキリシタン墓碑など、教科書や資料集に掲載されるほどの展示物も多くあり、生徒はメモを取りながら興味深く見学していました。

そして午後は京都府立洛北高等学校附属中学校へ行きました。京都府立洛北高等学校は創立150年を超える歴史があり、高志中・高よりも先に中高一貫となった学校です。洛北中学校からも2年生が40名程度参加し、5・6人の混合グループで数学の課題に取り組みました。

今回の課題は、「 $N \times N$ のオセロのようなマス目に、任意に白黒が割り当てられる。そしてその一つのマスを押すと縦横行列含め反転する場合、全マス目が一色にそろるかそろわないか」を考える課題でした。

授業開始前から生徒たちは自発的に自己紹介し合い交流を深め、その後3時間、グループでしっかりと課題に取り組んでいました。授業の最初の方は 4×4 のマス目に実際に白黒を書き込むものの規則性などがわからないグループがありました。その後、「問題をとらえなおす」「焦点化する」「簡略化する」などのヒントを参考に、各自がしっかりと考え、自分なりに言語化して共有し、全員で議論して精度を上げるという進め方ができていたようです。終了後には、以前からの友達のようにハイタッチしたり、バスに乗ったあとも手を振り合ったりする光景が見られ、今回の研修がとても有意義な時間であったことがうかがえました。



（生徒感想）

- ・洛北の人たちは人前で話す能力がとても高いと実感した。授業で班の意見をまとめ、ノートを作り、即座に代表として発表しているのが本当にすごいと思った。私も今後「やってみよう精神」で自信をつけたい。
- ・今回、自分はもっと勉強するべきだと思った。洛北の子は自分と違った新しい視点を持っている人が多く、それに助けられたことが多かった。
- ・3時間数学の問題に向きあったが、疲れや飽きを感じずに、洛北の人と一緒に、ひたすら手を動かしながら問題に立ち向かうことができた。解くには至らなかったのですが、どう解くのか、何を試すのかなどのプランを立てながら手を動かすようにしようと思う。